

# 会報ひまわり

創刊第2号

## 目次

- 1:療育知識〈褒めること〉
- 2:お知らせ〈ペアレントサポート事業開始のお知らせ〉
- 3:活動報告〈クリスマス会を振り返って〉

## 療育知識〈褒めること〉

早速ですが、今回の会報誌は、「褒める」ことについて語っていきたいと思います。

褒めるということについて語ることは、非常に困難な面を帯びていると感じます。その理由は、褒める場面があまりにも多すぎて、具体的な場面ごとの臨床技法を説明することは、つまり範囲が限定されてしまうことを意味するからです。

ですから、今回は、褒めることの大切さと、褒めるための原則を、行動療法に当てはめて、私自身が臨床を行う上で大切にしていることを記載します。

この文章が、誰かに、何らかの意義になれば幸いに思います。

### ■褒めるということ

「褒める」ことは、子どもへの教育・しつけの中で最も身近な方法であり、同時に非常に大切なことです。

だからこそ、実は中々実践できていないことがあります。

褒美とは、大きく分けると「外的」「社会的」「内的」と区別することができます。

「外的」とは、いわゆるご褒美の「お菓子」やシャボン玉を始めとする「玩具」などの、いわゆる「物質的」なものを、子どもへの褒美としていくものです。

「社会的」とは、褒めることや、社会的に評価されること(メダルなど)を言います。

「内的」とは、「楽しそう」「やってみたい」「自分で自分を褒める気持ち」「満足感」などにより説明することができるでしょう。

より良い「教育」とは、教育を享受する個人に合わせた指導を行っていくということです。

そのように考えていけば、褒美の定義も、個人によって異なっていくでしょう。

ですから、褒めることを含め、子どもにどのように指導をしていくことが大切なのかを考え、そのエッセンスをふんだんに取り入れ、より良い指導をしていきたいものです。

■上手に褒めるために

①つもりにならないこと

上手に褒めるためには、「つもり」にならないことが大切です。

子どもにとって「本当に身になる褒美」を与えていくことが、つもりにならずに、本当に子どもの行動を褒めることにつながっていきます。

②つもりにならないために

私が、つもりにならないために心がけておきたいと思うことは2つあります。

以下に記載していきます。

## 1・子どもの物差しで評価を取る

1つ目は、「子どもの物差しで評価を取る」ことです。

例えば、1キロを走らせることが目標で、いくつかの発達上の課題があるために、今までは50メートルしか走ることができなかった子どもがいるとします。

その子どもが、次の日に100メートル走ることができた際に、「本当は1キロ走って欲しいのに」と言えば、走ることへの動機付けは消えてしまうでしょう。

ですから、大切なことは

- ①ある「目標行動」を設定した場合
- ②現時点で子どもの状態はどの程度かを評価したうえで
- ③細かく目標を設定し
- ④その目標までの到達方法を教え
- ⑤必要に応じて手助けを行い
- ⑥練習していくこと

だと言えると思います(目標達成までのステップ)。

そして

- ⑦成功体験を多く積みませ
- ⑧たくさん褒める

ことが、子どもへの教育にとって最も大切だと思います。

「子どもの物差しで評価を取る」こと、ステップ(目標への到達の道筋)により教育を進めていくことは、子どもに「たくさん褒めることができる介入」となるでしょう。

そして、目標設定と、そのためのステップ方法が、子どもへの個別指導計画となるのだと思います。

## 2・子どもが好きなこと(もの)探し

2つ目は、「子どもが好きなこと(もの)探し」です。

療育を進めていく上での最も基本的なことは、「(その)子どもは何が好きなのだろう?」と考え、探していくことです。

子どもが好きなものは、その「年齢」と「発達状況・水準」と「環境」などが複合的に絡み合って成り立つと考えられます。

私自身は、やはり何度かの視察と保護者の方とのミーティングにより明らかにしていきます。

そして、療育の過程の中において、その他様々な物・場所を与え、好きなこと(もの)を増やしていきます。

保護者の方も、様々な物を手に取らせてみて・様々な場所に行き、好きなこと(もの)を探ることができるかと思います。

そのようにしていくことにより、好きなもの・嫌いなものをより一層理解しやすいかと思います。

そして、好きなこと(もの)を見つけていくことで、子どもを教育していく中で様々なエッセンスを取り入れていくことができるでしょう。

単純に考えても、好きな場所が見つければ

「学校に行ったら公園(好きな場所)に行こうね」

また、好きな物が見つければ

「宿題したらゲームやろうね」

などと褒美を与えていくことができます。

## ■結び

ここまで会報誌をご覧頂きありがとうございます。

上記のように考えると、褒美はとても大切で、実に身近で、しかし中々しっかりと子どもに合わせて褒めることは難しいと考えられた方は少なくないと思います。

しかし、褒めることを失敗してしまっても、時間はたくさんあります。

ですから、またトライすれば良いのです。

そして、子どもを褒めている自分をたくさん褒めてください。

それが、長く子育てを楽しむ秘訣では、と私は考えています。

お知らせ～ペアレントサポート事業開始～

当会「会報ひまわり」をご覧頂きまして、誠にありがとうございます。NPO法人ひまわりの会事務局でございます。

今回は、新しい活動「ペアレントサポート事業」の誕生のお知らせをさせていただきたく、記載させていただきました。

ペアレントサポート事業とは、簡単に説明すれば、主に「グループペアレントトレーニング」「支援者向け講座」などの「講義」を中心として活動しております。

また、保護者の方や代表・ボランティアと協力して、イベント・キャンプを行って生きたいと思っております。

すでに「支援者向け講座」「グループペアレントトレーニング基礎講座」の募集や、順次イベント活動が始まっております。

今後、継続した活動を行っていくこととなりますので、ホームページをご覧いただけましたら大変幸いに思います。

この場をお借りして、ペアレントサポート事業開始のお知らせをさせていただきます。

NPO法人自閉症児療育支援ひまわりの会事務局

代表から

ペアレントサポート事業を開始いたしました理由は、第1には、これまでの臨床経験から、保護者の方との協力体制こそが、非常に重要であることを実感として持ったからでございます。

療育を行い、その成果は日常生活の中で活かしていく必要があります。

そのためには、指導員のみならず、保護者の方も知識として知っておいたほうがより効果的であると考えます。

そして、第2には、各臨床場面で活動しておられる方、これから活動を始める方々が、発達障害についてより良い理解のため、また、応用行動分析の研究の中で生み出された様々な効果的な理論を学んでいただき、より効果的な介入方法を習得していただきたいと考えているからでございます。

保護者の方とそれを取り巻く指導員の方がじっくりと学べる場を作っていくことにより、子ども・保護者の方にとってより良い環境を作っていくことにつながっていくことを目標として活動して行きたいと考えております。

ひまわりの会での臨床だけでなく、ペアレントサポート事業での活動を行っていくにあたり、保護者の方々からの多大なる協力があつてこそ成り立っている事業でございます。

全力で活動していきますので、よろしくお願い申し上げます。

NPO法人自閉症児療育支援ひまわりの会：代表尾串光康



クリスマス会を振り返って

去る、昨年12月27日(日)に、ひまわりの会毎年恒例のクリスマス会が開催されました。

クリスマス会では、普段の親子教室などのグループ療育とは、また一味違った華やかな雰囲気の中での活動となりました。

クリスマスバージョンのパネルシアター「赤鼻のトナカイ」、大人数で長い車両の電車ごっこ、広々とした空間で思い切り身体を動かし、音楽に合わせてながらの行進を行いました。

また、紙ふぶきやパラバルーンも行いました。

それから、クリスマスに欠かせないクリスマスツリーの飾りつけも行いました。

手作りの大きなツリーに、保護者の方と子どもが協力して「星」を作成し、子ども達がひとつひとつ丁寧に飾りつけ、素敵な力作が出来上がりました。

そして最後にはメインイベントであります「サンタさん」からおもちゃとお菓子のプレゼントがございました。

早速プレゼントの中に入っておりましたお菓子を、和気あいあいといただきながら、保護者の方々同士の交流も深まったと感じております。

このようなイベントは、単純に楽しむものかと思いますが、それだけでなく、子ども達にとりましては成功の体験を積み重ねていくものだと思っております。

1つ1つの子どもの動作を先生方が褒め、また、活動自体も子ども達が楽しめ、自分から積極的に行動させていく配慮があり、今回の活動も、子ども達にとって、また少し自信を持てたのではないかと思います。

ひまわりの会の先生方におかれましては、日々お忙しい中、今回もこのイベントを企画してくださいましたことには、大変感謝しております。

誠に僭越ではございますが、保護者を代表いたしまして、心から御礼申し上げます。

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、帰りは名残惜しい気持ちでございましたが、この日は1年を振り返り、また、新しい年の始まりに、ゆっくりと思いを馳せませうような、そんな暖かい雰囲気に包まれておりましたように感じております。

それではまた、次回のイベントで皆様にお会いできますことを楽しみにいたしながら、今回のクリスマス会のご報告を締めくらせていただきます。

保護者会員